

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	○	毎朝の申し送り終了後の理念の読み上げを継続し理念の実践に向け取り組んでいけるよう努めていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	隣近所への訪問を職員だけでなく入居者と一緒に出向いて交流を持ち、近所の人々が気軽に立ち寄ってもらえるきっかけ作りや雰囲気作りをしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	地域との交流の場をもっと多くし交流の幅を広め入居者全員が参加出来るよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の学校からの見学や母体病院の職員の体験学習の実習生を受け入れ、認知症高齢者への正しい理解が得られるよう分かりやすく説明をしている。	○	地域の方との交流の場で地域の方々へ認知症についての理解が得られるような取り組みを行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価 外部評価の意義 内容の理解を深めスタッフで勉強会を開催 実際に自己評価したことで支援方法 変化 その成果をスタッフ同志で確認しあっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催しており入居者 家族 行政 地域の意見をサービス向上に活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の主催する研修会への参加や、高齢福祉課や地域包括支援センターを訪れ介護保険に関する相談や情報の交換などを行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会での学習 資料等を利用して制度の理解に努めている、現在制度の活用支援は行っていない。	○	制度を利用する入居者がいた場合は制度に関する理解をさらに深め関係機関に相談して活用していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	理念の中に掲げており職員間で高齢者虐待防止についての勉強会を行い事業所内でのスタッフによる虐待がないよう防止の徹底に努めている。	○	スタッフの職務上のストレスが蓄積しないよう職員間のコミュニケーションを図り ホーム内で虐待がないよう取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体病院の計画する研修会や勉強会への参加 沖縄県グループホーム連絡会の主催する研修会勉強会等への参加 又は県や市が主催する研修会への参加等を行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県のグループホーム連絡会に加入し管理者間の交流及び職員同志の交流も同時に行っている、他ホームとの相互訪問を行い更なるサービス 質の向上に取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員個々の思いを聞き出しストレスをためないように相互が気軽に話しできる雰囲気作りを行っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員評価票を用いて職員個々の評価並びに個人面談を行い個々が努力 実績 目標 向上心を持って働けるよう取り組んでいる。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の家族との相談の中で本人の性格を確認し本人が緊張しないで気軽に話しできる場での面談を行っている そこで本人との会話の中からニーズを理解できるよう取り組んでいる。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の相談は家族の話を十分に聞ける時間を設けている 家族から話される事に対して受容的に受け止め家族の意向や今後の方向性について話しあっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族からの相談内容本人の心身の状況を把握した上でニーズに対応するサービスの情報提供を行い本人 家族が自ら選択できるように努め自己決定に基づいた支援を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人の意向を聞いて意志を確認しながら本人に合わせた対応で場に馴染んでもらえるような人的 物的環境に配慮している。		本人本位での体験利用に心掛け精神的なストレスにならないよう留意している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者個々の能力に合った役割分担を行い入居者と職員又は入居者同志が共に互いを尊重しあい助け合い支えあう生活を心掛けている。		残存能力を引き出し特技を持っている入居者にはそれぞれの先生に仕立ててスタッフが教わるような場面作りを行っている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の状況報告を行い本人が抱えている問題を職員だけでなく家族とも本人の思いを共有した上で一緒に協力して支援していく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族にはホーム入所後の関係が疎遠にならないよう面会の促しや面会にこれるような工夫を行っている。本人との会話の中に家族の話題を取り入れるようしている。		家族との関係が疎遠にならないように日用品はホームでの注文を控え家族持込にしている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人との会話の中で得た情報やアセスメントで得た情報を元に馴れ親しんだ人の話や 場所の話がでたら極力その話をするように心掛けている、その場所への外出希望があればドライブ等を利用して外出支援を行っている。		毎週1回(金曜日)行っているドライブの時懐かしい思い出の場所を巡るなどの取り組みをしている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者個々の状態把握や他入居者との関係を把握し入居者同士のトラブルや孤立する事のない生活環境を作り互いに係わり合い支えあえるような取り組みをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後電話で入居者の状態の確認を行いながら家族との連絡を取るようになっている、又気軽に来所出来るような話し方をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の暮らしへの意向や希望を聞き取り思いや意向の把握に努めその人らしさを前提に検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にとった入居アセスメント表をもとにその後の本人及び家族から得た情報を取り入れサービスに生かせるように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日中の関わりの中で個々の生活パターンを把握し個々に合った生活支援を行い毎日のバイタルチェックで健康状態の把握に努めている 又日常の観察を記録に残し申し送りを行い職員間の共有を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人 家族の意向や希望を元に介護支援専門員 スタッフがカンファレンスを行い必要時には主治医等の意見も確認し自立支援に向けた介護計画の立案を行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画が本人に適しているかを確認し心身の変化に合わせた計画の見直しや変更を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中で生じた心身の変化及び行動 言動等の変化などを介護記録に残し申し送りや情報の共有を行い介護計画の見直し等に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じた外出 外泊支援を行い必要に応じては職員が家族 入居者と一緒に自宅への外出支援を行っている。	○	多機能性を活かした支援方法を他ホームからの情報も取り入れながら支援方法を考えていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	事業所行事へのボランティアの導入 消防訓練を通しての消防署員との連携 地元の老人会との交流近隣の学校より職場体験の受け入れ等で地域社会とのつながりと役割意識を感じてもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他施設への転居希望時には必要に応じて他のサービス事業所との連携をとり情報提供や情報交換等を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員との情報交換は行っているが現在入居者の中に権利擁護を必要としている人はいない。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員の主治医が母体病院の医師であり定期外来受診や急変時の診察支援を行っている。		母体病院との緊急体制が確立されており緊急時には医師や看護師が何時でも駆けつけてくれる応援体制が整っている。

沖縄県(グループホーム月桃)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>入居者の状態をより理解してもらうために外来看護師に情報提供などを行っている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化や週末期に向けた方針については主治医や運営者と相談検討していく。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者個々の生活状況 特性を把握し言葉や態度 介護においてプライバシーを侵害しない対応を行いハード面についての配慮や情報の守秘義務の徹底に努める。	○ 個人情報保護法の研修会や接遇についての勉強会への参加を行いプライバシー確保に努めていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入浴や食事等といった日常の生活場面や余暇 レク活動の中で入居者個々の能力を見極め選択肢の中から本人が自己決定できる機会を作るように努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の意見を尊重しその時の気持ちや希望等を確認しながらその人らしい生活のリズムを継続出来るように支援を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着用する衣類は本人の希望や好みに合わせた服装の選択を行っている、整髪 理髪は家族がホームで行ったり 家族と共に行きつけの理容院への外出支援を行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は食卓で会話をしながら入居者と職員と一緒に食事をしている準備や片付けは入居者個々に合わせ 役割を決めて職員と一緒にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒やタバコを楽しまれる入居者はいないが毎朝コーヒーを楽しまれている入居者へは朝食後にコーヒーを楽しんでもらっている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居者個々の排泄パターンを把握し失敗やオムツ使用を減らすようにトイレ誘導を個々の習慣にあわせストレスにならないよう配慮した誘導の排泄支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日を日課の中に入れていますが希望があれば何時でも入浴できるように体制を整えている、入居者の体調に合わせた入浴や安心して入浴できるように支援している。	○	現在シャワーでの入浴になっているが入居者から浴槽での入浴希望があれば対応できるように取り組んでいきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	過去の生活習慣の情報を参考にし入居者個々の睡眠パターンを睡眠チェック表で把握し昼夜逆転がないよう日中の活動への参加を促し生活リズムに合わせた支援 安眠支援等に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者個々の持っている特技 趣味を生活の場に引き出し生き活きた場面作りを支援し 個々の力に合った役割意識を持たせた活動支援を行っている。		三味線や囲碁を趣味にしている入居者へは職員が準備して一緒に楽しんでいる。役割としては食器洗い 洗濯物たたみ お膳拭きテーブル拭き等の支援を行っている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族や本人の希望 入居者の能力に応じてお金の自己管理を行っている お金は使いやすいように小銭を多目に持たせるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地が広く周囲に遊歩道や東屋があり天気の良い日には散歩したり東屋で休憩しながら会話を楽しめるような戸外支援に取り組んでいる。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎週1回行っているドライブを利用して入居者の希望する行きたい場所や家族の要望も取り入れた遠出の外出支援を行っている。	○	現在は職員と入居者だけのドライブなので今後は家族も一緒にドライブに行けるような取り組みの計画をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要求や希望があった時は職員が電話対応の支援を行っている、入居者が自由に電話できるようにホール内に公衆電話を設置してある。聴力低下の入居者へは本人に代わって用件のやり取りを代行している。	○	入居者の能力を見極め家族や大切な人に手紙を出せるように支援していきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族以外の面会者や来客者が訪れた時は気兼ねなく過せる場所の用意と家族の来所時は自由に居室への方室が出来ゆくり過せる場所の確保に努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	如何なる状況にあっても拘束をしないケアの実践に取り組んでいる事業所の理念に掲げてあり全職員が拘束に対する認識を持ち理念の理解に努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	極力鍵をかけないようにしている 玄関に音の出るセンサーを取りつけ外へ出て行く入居者がキャッチ出来るように物理的に工夫を施している 外に出て直ぐに呼び止めず見守り支援を行い行動を観察している。		入居者が外に出たあとは安全面を確認しながらどのような行動をするか観察を考察している。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	自室で過される入居者の様子を観察する際ドアが閉められているときプライバシーに配慮し扉を開けずにドアにある観察口から観察する様にしている。部屋のドアの鍵は内から閉められても外から簡単に開けられるように作られている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	リスクの高い物品は本人や家族と相談し置かないようにし個々の管理能力に合わせた物品の管理支援に取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	申し送りでも生活上のリスクの情報を共有し予測されるリスクを職員全員で確認し検討している、家族への情報提供や家族からの情報収集等行い未然に事故を防ぐように取り組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	母体病院が計画している救急法の実地訓練や勉強会への参加と救急法委員会の委員によりホームでの勉強会を行っている。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体病院と合同による年2回の消防訓練を行い スタッフ 入居者共に防災安全への意識付け及び避難誘導等を確認している、災害時の母体病院からの応援体制が整っている。	○	母体病院との合同訓練以外にホーム単独での防災訓練の実地に向けての取り組みをしていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	安全面や健康面等現在の状況から予測されるリスクを家族と話し合い対応方法を検討したり抑圧感のない対応策に取り組んでいる。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定及び食事摂取量 排泄 睡眠チェック等から身体状況を把握し些細な変化があっても早期発見できるよう観察しながら支援を行っている。状態によっては主治医や母体病院の医師に報告し指示を仰いだりしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事業所で保管している医薬品集や薬局から発行される「薬の説明書」から内容を確認し個々のお薬手帳に記載されている処方内容を把握し薬の変更がある時は状態の観察を充分に行なうようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防に野菜ジュース等をあげたり 多目の水分補給や日中の活動を通して体を動かしたり腹部のマッサージ等で予防に取り組んでいる。		便秘が3～4日続いたら主治医の指示する下剤投与で対応している。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後誘導や一部介助で歯磨きや口腔ケアの支援を行っている義歯の入居者へは義歯洗浄剤での対応支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量の確認や一日の水分摂取のチェックをし記録に残し栄養状態を把握している、10時と15時のおやつ時には自分でお茶が飲めるように急須をおいて水分摂取の確保に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	母体病院の感染対策委員会の感染対策マニュアルに沿って実行しホーム内での予防策や対応を毎回検討している、家族にも情報提供を行い持ち込まないことを重点においた取り組みをしている。		インフルエンザが流行している時には外出を少なめにしうがいや手洗いを徹底し感染予防に努めている、又毎年職員と入居者が母体病院でインフルエンザワクチンの予防接種を行っている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理場で使用する調理用具は全て洗剤で洗い食器乾燥機による消毒を行っている、食材は母体病院からパックされてくるので衛生面での安全が確保され食材も新鮮を保っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの入り口と玄関前に表札が掲げられホームの場所が分かり易い 玄関ドアはガラス張りでホームの中が見え易く安心して出入りが出来る、建物の周囲は造園され庭園には散歩や休憩ができるように遊歩道や東屋が作られている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内や居室の照明は間接照明になっており快適な照明空間になっているテレビやラジオの音調にも配慮し入居者の集うリビングからは庭園を眺めながら季節の花を見る事ができる共用の生活空間になっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に入居者がゆっくり座って過せる食卓とソファーそして小さな畳間があり入居者一人一人が過しやすい場所で思い思いにゆったり過せるように取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者や家族の希望によって自宅から持ってきた家具 電化製品 装飾品 家族の写真等が置かれており家庭的な雰囲気を感じさせるような取り組みをしている。入居者の希望でベットの位置や方向を変えたりしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	自然の風を感じて暮らせるような窓の建物構造になっている廊下の中央の天井には開閉式の換気口があり換気や空調設備が整っている入居者の状況に応じて温度調節を適宜行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	高齢者にとっての使いやすさを考慮し全ての設計がバリアフリーで廊下、トイレ、浴室に手すりの整備が施され居室、トイレ、浴室等の出入り口は車椅子でも簡単に出入りできる広さになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者個々の認知度の程度を把握し記憶力の低下と視力の弱い入居者へは自分の部屋が分かるように部屋の入り口に大きく名前を表示し側には本人の写真を貼り付ける等の工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	自由に庭に出る事ができ 散歩の出来る遊歩路がある リビングの 窓の外側には入居者が季節の花を植えられるようにプランターを用意してある。	○	庭はグランドゴルフが出来る程の広さがあるので入居者家族だけでなく地域の方への開放の取り組みをしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム月桃)

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム月桃は周辺が心を癒す緑豊かな環境にあり身近で自然に触れ合う事が出来る、月桃の日々の取り組みとして入居者に対して「その人らしく暮らせる」環境作りに力を入れている。物的環境だけでなく人的環境も含め、周り全てが環境という考えの下に入居者が安心して生活出来るよう支援すると共に、少しでも認知症 行動障害の改善に努め、入居者1人ひとりの生活の質が向上するよう取り組んでいる。又 家族や地域との交流の幅を広げ 地域社会の一員として暮らせるよう支援している。